

# 追悼の言葉

麗澤大学経済学部長  
高 巖

平成21年2月11日（水）、牧野普先生の突然の訃報に接し、ただただ愕然とするばかりでした。

先生は、1984年3月に駒澤大学文学部社会学科を卒業され、その後、同大学院博士課程人文科学研究科心理学専攻で学ばれました。博士課程修了とともに、89年2月より、マイクロシステムズ株式会社で約3年間お務めになられ、92年4月から98年3月までは、一橋大学商学部の助手として活躍されました。

牧野先生のこのようなご経歴、ご研究を、是非とも麗澤教育に活かして戴きたく、先生に働きかけ、98年4月、本学にお招きすることができました。その後、先生は、ご専門とされていた「分散システム運用論」「ネットワーク技術論」などのご研究を深められるとともに、教育にあたっては、実に親身になって学生の指導にあってくださいました。多くの学生が、牧野先生を慕っておりますのも、それゆえです。学部運営に関しましても、先生は、たびたび建設的な意見を述べてくださり、労苦の多い仕事もすすんでお引き受けくださいました。

これに加え、牧野先生は、社会貢献に労苦を惜しまない方でした。その情熱には、多くの関係者が心を動かされたと聞いております。中でも、柏市における地域教育ネットワークの構築・運用・管理は、先生が身を削るような思いで、取り組まれた貢献活動でした。先生のご尽力がなければ、このプロジェクトは、絶対に軌道に乗ることはなかったと思います。言うまでもなく、これが実を結び、柏市の教育に大きな貢献を果たしましたことは、麗澤大学の誇りであり、経済学部の喜びとするところです。

これだけのお仕事をなさった牧野先生でしたが、先生は、いっさい、自分のやったことをひけらかすことも、また奢ることもありませんでした。本当に、心の優しい方でした。そんな牧野先生に、私は、いつも心の暖かさを感じておりました。おそらく、仕事面で色々葛藤されることもあったのではないかと思います。先生は、そうしたことを口にせず、前向きに物事を捉え、取り組んでおられました。思い起こせば、私も、何度か先生の優しさに甘え、相談にのってもらったことがあります。そんな時、先生から返ってくる返事は、いつも「いいですよ！」でした。

今年度より、経済学部の運営を委ねられ、私としては、これまで以上に、牧野先生に、精神面で助けて戴きたいと思っておりました。また、事実、新執行部を編成する時にも、先生には、貴重な助言を戴きました。あの時の先生の、思いやりある言葉や責任感の強さを、私は、生涯、忘れません。

先生が他界され、既に半年が経過しましたが、悲しみが癒えることはありません。プラザ棟横の駐輪場で、先生は、タバコを吹かされ、いつも笑顔で話しかけてくださいましたね。まだそこにいらっしゃるようで、無念、残念でなりません。ただ、私たちには、現実を受け入れるしか選択の余地がないことも、よく分かっております。

今後は、牧野先生のお気持ちを引き継ぎ、研究、教育はもちろんのこと、経済学部として、社会に対し積極的に貢献していきたく思っております。どうか天国よりお見守りくださいませ。

また、私個人としても、お願いがあります。この世の些事で、私が悩んでいる時には、先生、是非、私の夢に登場し、どんな言葉でも結構ですから、助言をください。先生の人柄から出てくる一言は、何物にも代え難い、大きな励ましになります。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。